

ヨコレイ NOTE VOL.33

第77期報告書

2023年10月1日～2024年9月30日

- P1 トップインタビュー・財務ハイライト
- P3 新・中期経営計画(第Ⅱ期)の進捗
- P5 営業の概況・事業別の概況
- P6 連結財務諸表(要約)
- P7 News & Topics
- P9 食品販売事業部の展望
- P10 会社情報

人とおいしさのあいだに

おいしさは、ココロを満たす
おいしさは、カラダをつくる
すべての人を幸せにするみなもと

食により添い、食を豊かにする
かかせない存在として、
私たちはこれからもずっと
そのおいしさを守り続けていきます

冷蔵倉庫と食品販売
ふたつの事業で日本へ、世界へ
人のために食をつなぐ使命を果たします

生産地から食卓まで、
食にかかわる人たちの
ほほえみもつないでいく

人とおいしさのあいだに
ヨコレイ





ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

既承のように当社では、第77期(当期:2023年10月1日から2024年9月30日まで)定時株主総会の継続会を開催いたしました。これに伴い、第77期報告書『ヨコレイ NOTE VOL.33』のお届けが例年よりも遅れましたことをお詫び申し上げます。

ここに、当期の営業概況ならびに、新・中期経営計画(第Ⅱ期)「繋ぐ力」初年度の進捗内容等についてご説明させていただきます。

ご一読の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年2月

代表取締役社長 **古瀬 健児**

2024年問題解決にも資するセンター数の拡大と最新鋭化、およびセンター運営を支える人材の確保・育成を計画的に進めてまいります。

過年度決算の遡及訂正について*

2024年下旬より決算処理に関して監査法人との検証・協議を行ってきた当社では、2025年1月6日付けで、過年度決算(2021年9月期~2024年9月期)の訂正内容を公表いたしました。株主様をはじめとする関係者の皆様方には、多大なるご迷惑とご心配をお掛けしておりますことを深くお詫び申し上げます。

今回の決算訂正は、主に食品販売事業の海外取引に関するものであり、過年度に遡り、収益認識基準に関する会計基準に準拠した会計処理に修正、また、回収に長期間を要すると見込まれる海外取引先向けの売掛金等の債権に関して、2023年9月期において135億円の特別損失を計上いたしました。今後は、財務報告に係る内部統制の不備を是正、再発防止策の適切な策定・実施に努め、ステ

ークホルダーの皆様方からの信頼回復に尽力してまいります。

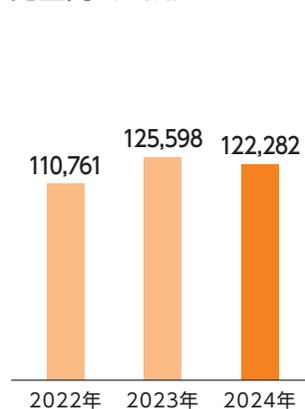
*当事案についての詳細は、当社HP内「IRニュース」(<https://www.yokorei.co.jp/ir/news/>)をご参照願います。

新・中期経営計画(第Ⅱ期)「繋ぐ力」(2023年10月~2026年9月)の初年度を終えて

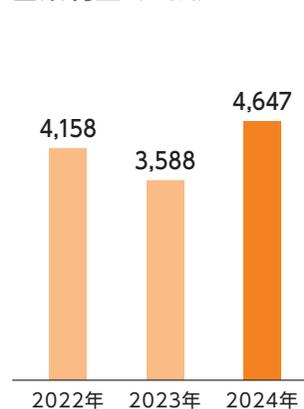
下掲の財務ハイライトグラフ(遡及訂正済み数値)にお示した通り、新・中期経営計画(第Ⅱ期)「繋ぐ力」(2023年10月~2026年9月)の初年度を、各利益段階とも増益でスタートすることができました。また、この1年間では、高騰を続ける電気料金と2024年問題への対応が重要なポイントであったのですが、お客様や協力会社様のご理解・サポートを仰ぎながら、それぞれしっかり対応することができたと考えております。

財務ハイライト

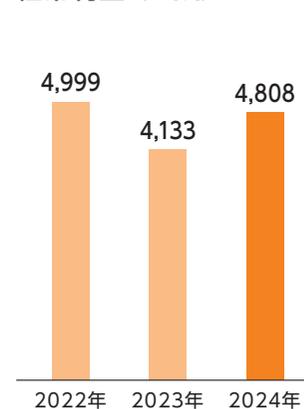
売上高 (百万円)



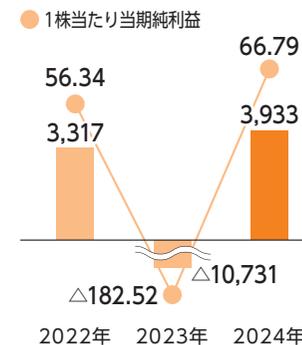
営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(百万円) / 1株当たり当期純利益(円)



高騰する電気料金に関しては、お客様と真摯に交渉を続け、価格転嫁を行わせていただきました。なお現在、当社では全冷蔵倉庫の半数近くに太陽光発電システムを導入済みです。且つ、各冷蔵倉庫拠点には最新鋭の冷凍機を整えております。これらアドバンテージが効果を発揮し、電気料金高騰の影響を業界平均よりも抑えることができております。

2024年問題に関しては、自社トラックを持たない当社にとって入出庫のスピード化と、中継拠点冷蔵庫の整備を含む拠点数の拡大が大きなテーマとなっております。そのような中、入出庫時間の短縮化については、RFID(ICタグ)搭載パレットによるパレタイズ運用やパレチゼーションの取り組みによって、着実に荷役時間の短縮化を進めることができています。また拠点数の拡大については、当期、北海道内での要衝地に「恵庭スマート物流センター」(2024年2月)、関西万博の隣接地に「夢洲第二物流センター」(同)、博多港の需要に対応する「箱崎FACILITY物流センター」(2024年4月)を計画通りに竣工することができました。また、中継拠点冷蔵庫の整備については、中国・四国地方の要衝地に「岡山物流センター(仮称)」の建設が順調に進み、2025年4月竣工の予定となっております。

各個別施策の展開が順調に進む冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫事業では各個別施策の展開が順調に進み、中計初年度を増収増益で終えることができました。

具体的取り組みの進捗としては、先述の内容に加え、初のベトナム進出となる「バンルック物流センター(仮称)」(2025年3月竣工予定)、北海道地区8つ目の物流拠点「十勝第四物流センター(仮称)」(同4月竣工予定)、タイ国における4つ目の拠点「スワンナプーム物流センター(仮称)」(2027年春竣工予定)の計画が粛々と進んでいるこ

とを挙げておきたいと思います。また、生産性向上・スマートオフィス化の一環として、京浜地区センターにおける一部業務の本社への移管を開始しました。現在当社では、センター業務時間の削減を鋭意進めており、当期では約22,000時間の削減を実現することができております。「バンルック物流センター(仮称)」「十勝第四物流センター(仮称)」でのRPA導入に代表されるような各拠点のロボティクス化、他地区でのスマートオフィス化等を適宜図りながら、今期(2025年9月期)では40,000時間削減を目指してまいります。

利益率の改善が進み且つ更なる成長余地を残す食品販売事業

食品販売事業では利益率が改善し、中計初年度の当期に前期比50%超の増益を達成することができました。しかし、まだまだ伸び代は大いに残されていると率直に感じています。

食品販売事業は性質上、その時々の水揚げ量の影響を多分に受け、どうしてもボラティリティが発生しがちです。しかし逆説的に言えば、その部分を的確に捉えることができれば、水揚げ量の不確実性の中においても、着実に売上と利益を確保することができるのです。そういった意味では今後、更なる販路の拡大とスペシャリストの育成といった点が重要なポイントになってくるであろうと考える次第です。

従業員アンケートでの意見を反映した新人事制度を構築

今日の当社の冷蔵収容能力は約112万トンとなり、20年前の約60万トンから1.5倍以上に拡大しています。この間あるいはそれ以前を通じて、当社は常に自前の

社員でセンターのオペレーションを続けてきました。これこそ正に当社の強みであり、当社がセンター新設を不断に続けてこられた原動力でした。つまりは、当社の基本は「ヒトのチカラ」なのであります。

このような不変の想いの下、今般当社では、これまで定期実施してきた従業員アンケートでの様々な意見や声を真摯に踏まえた上、人事制度を改定いたしました。新人事制度では、評価と昇進基準をより明確化・見える化し、若手および中堅社員のモチベーションやエンゲージメントを維持・向上させる設計としております。また併せて、高卒を含む新卒初任給のベースアップも実施しました。今後とも採用活動の強化や、人材育成に特化した施設と実地研修機能の双方を備えた「横浜みらいHRD・横浜みらいサテライト」の一層の活用を図り、「ヨコレイのヒトづくり」に努めてまいります。

1株当たり12円の期末配当を実施

当社は1962年の東証二部上場(当時)以来、半世紀以上に亘り累進配当を継続しております。当期末では1株当たり12円の配当を実施させていただきました。これにより中間配当12円と合わせた年間配当額は、昨年と同額の1株当たり24円となります(昨年は期末に創立70周年記念配当1円を実施)。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



全体方針

「繋ぐ力」 当社グループは2030年に向けた長期的方向性「ヨコレイ事業ビジョン2030」および「ヨコレイサステナビリティビジョン2030」の実現に向けた第2ステージとして、2026年を最終年度とする新・中期経営計画(第Ⅱ期：2023年10月～2026年9月)を策定しました。

2026年度目標

売上高 **1,500**億円 営業利益 **65**億円

EBITDA **130**億円

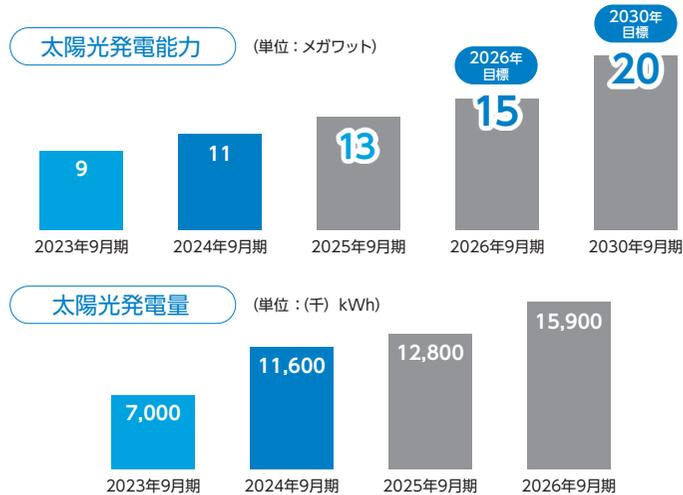
ROE **5%以上**

自己資本比率 **40%台を維持**

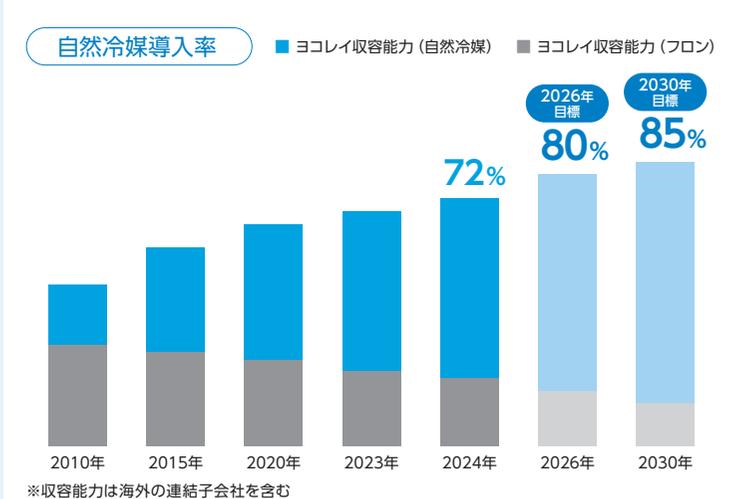
冷蔵倉庫事業における「3つの重点施策」の展開状況

1 環境配慮型センターの加速化

太陽光発電により動力費の抑制と環境配慮の両面に効果を発揮



新設冷蔵倉庫だけでなく、既存の冷蔵倉庫の自然冷媒化も推進



2 スマートコールドサービスの実現

完全自動倉庫

- 十勝第四物流センター(仮称)に当社国内初の完全自動倉庫を導入予定

中継拠点冷蔵倉庫の積極的な設置

- 2024年問題の長距離輸送便不足対策として、協力会社と連携し、中継拠点冷蔵倉庫を設置

スマートオフィス(事務作業が遠隔でできるオフィス)

- 通勤時間の短縮、および複数事業所の業務を一括集約処理することで少人数での効率的な事務処理が可能に
- RPAの推進による省力化・省人化

ITとロボティクス化による生産性向上の推進

- トラック予約受付システムの新システム導入
- 移動ラック、カーゴナビゲーションシステム、RFID(ICタグ)搭載パレット等の導入の推進

通関事業のサービス拡充・営業エリア拡大

- 2024年4月、名古屋通関部を開設し、通関事業部門は6拠点に

3 ASEANグローバル展開

ベトナムベンルック物流センター(仮称)

- 2025年3月 竣工予定

タイスワンナプーム物流センター(仮称)

- 2027年春 竣工予定

食品販売事業における「4つの改革・成長パッケージ」の展開状況

1 収益性向上のための 構造改革

販売推進事業部の取り組み

- 販売推進事業部の傘下に国内ならびに海外販売推進室を設置し、国内および海外の商圏を開拓
国内：全国の営業データを可視化し、今後の戦略を立案
海外：タイ・ベトナムを中心にASEAN商圏の開拓

DXの取り組み

- 商談共有システムのテスト導入
全国の営業活動を一元管理することで新たな販売機会を創出

人材育成

- 全国の営業マンを対象にサミットを開催し、若手の交流を促進
- 各商材に精通したスペシャリストの育成に注力

2 事業品^{※1}・ 全社取組商材^{※2}の 販路拡大

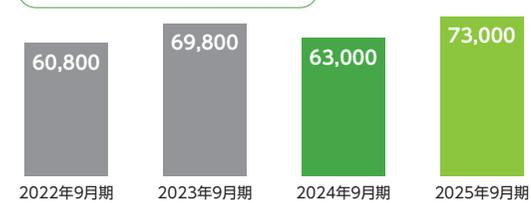
主な商材の実績・目標 (単位：トン)

ノルウェーサーモン



ハラスを中心に
売上を伸長し、
計画通りに推移
● 78期は4,500
トンを目指す

自社凍結加工品 (前浜商材)



東日本地区の
不漁により取扱
数量減少
● 78期は73,000
トンを目指す

大西洋サバ



計画通りに推移
● 78期は一次加工
品の取り組みに
より9,000トン
を目指す

畜産品 (国産)



国産品に注力し、
売上伸長
● 78期は2,300ト
ンを目指す

その他の事業品・全社取組商材についても、引き続き、販路拡大を推進

※1：投資先商材、自社生産品 ※2：一括仕入商材

3 独自商品と販売網の開発

- 医療食の販売拡大
- 一次加工品のラインナップ拡充
- 公式オンラインショップでのラインナップ拡充・販売拡大

4 海外における販路拡大

- 海外取引先の販路を活用し、販売先、資源のリソース獲得を目指す
- 養殖ブリ加工品の輸出強化

第77期 営業の概況・事業別の概況

(2023年10月1日～2024年9月30日)

営業の概況

当期の概況

国内経済は、インバウンド需要の増加などを背景に緩やかな回復基調が続いた。

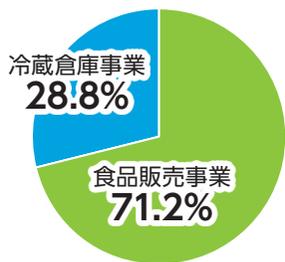
しかし、資源価格や原材料価格の高騰、円安による物価の上昇、世界情勢の緊迫化など、依然として先行き不透明な状況。

食品関連業界においては、実質賃金は上昇傾向にあるものの、食品の値上げによる物価上昇や配送コストのアップ、節約志向が続いており、厳しい経営環境が継続。

事業別売上高構成比

当期 (2024年9月期)
売上高合計

122,282百万円



今後の見通しと第78期 (2025年9月期) 業績予想

冷蔵倉庫事業は、2025年9月期中に3つの冷蔵倉庫が完成し、増収に寄与する見込みであるが、それに伴う減価償却費や一時経費等の発生により営業利益は減益の予想。食品販売事業は、昨年に引き続き利益重視の販売、量販店や外食への販路拡大を進めており、増収増益となる見込み。

売上高 **1,270**億円

[冷蔵倉庫事業: 360億円 / 食品販売事業: 910億円]

営業利益 **42**億5千万円

[冷蔵倉庫事業: 69億円 / 食品販売事業: 17億円]*

経常利益 **41**億5千万円

親会社株主に帰属する当期純利益 **28**億円

1株当たり当期純利益 **47**円54銭

* セグメント営業利益は、配賦不能営業費用(管理部門にかかる費用)の控除前です。

事業別の概況

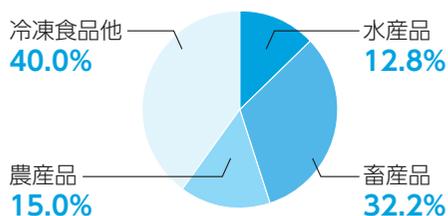
冷蔵倉庫事業

前期より続く高い在庫水準で、在庫量、在庫量が前期を上回り、保管料収入、荷役料収入も大きく増収し、物流センターの減価償却費、立上り経費等のコスト増を吸収。物価上昇やコスト増加への料金改定交渉やDX推進による生産性向上に努め、増収増益。

タイでも、在庫量、在庫量、ともに前期を上回り、主要品目の畜産品、乳製品等の取扱いが増加し増収増益。

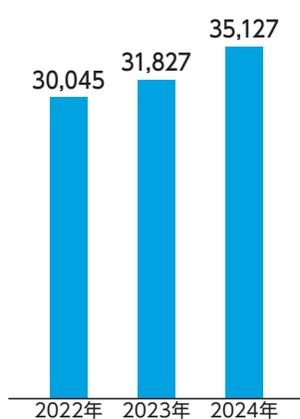
冷蔵倉庫事業の業績は、売上高は35,127百万円(前期比10.4%増)、営業利益は7,198百万円(前期比7.6%増)の増収増益。

当期在庫量品目別割合



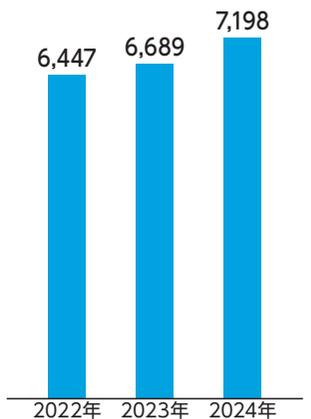
売上高

(百万円)



営業利益

(百万円)



食品販売事業

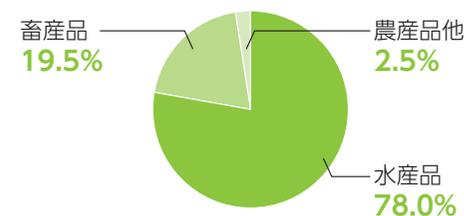
水産品は主力の鮭鱒は減収増益、イワシ、アカウオは増収増益、エビも利益率が回復。利益重視の販売取り組みにより減収増益。

畜産品は、インバウンドや外食向け需要回復により、ポーク、チキンが増収増益。ビーフは国内需要の低迷により減益となるも、全体では増収増益。

農産品は高温障害により取扱量は減少したものの、主力商材のイモ類が牽引し前年並みの利益を確保。

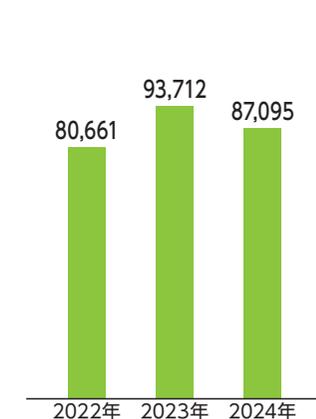
食品販売事業の業績は、売上高87,095百万円(前期比7.1%減)、営業利益1,473百万円(前期比53.3%増)の減収増益。

当期品目別売上高構成比



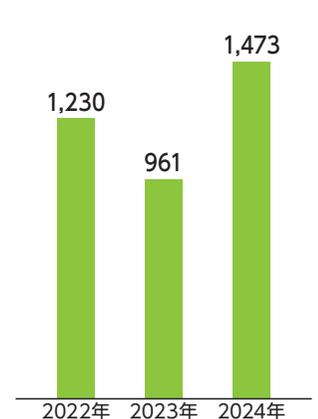
売上高

(百万円)



営業利益

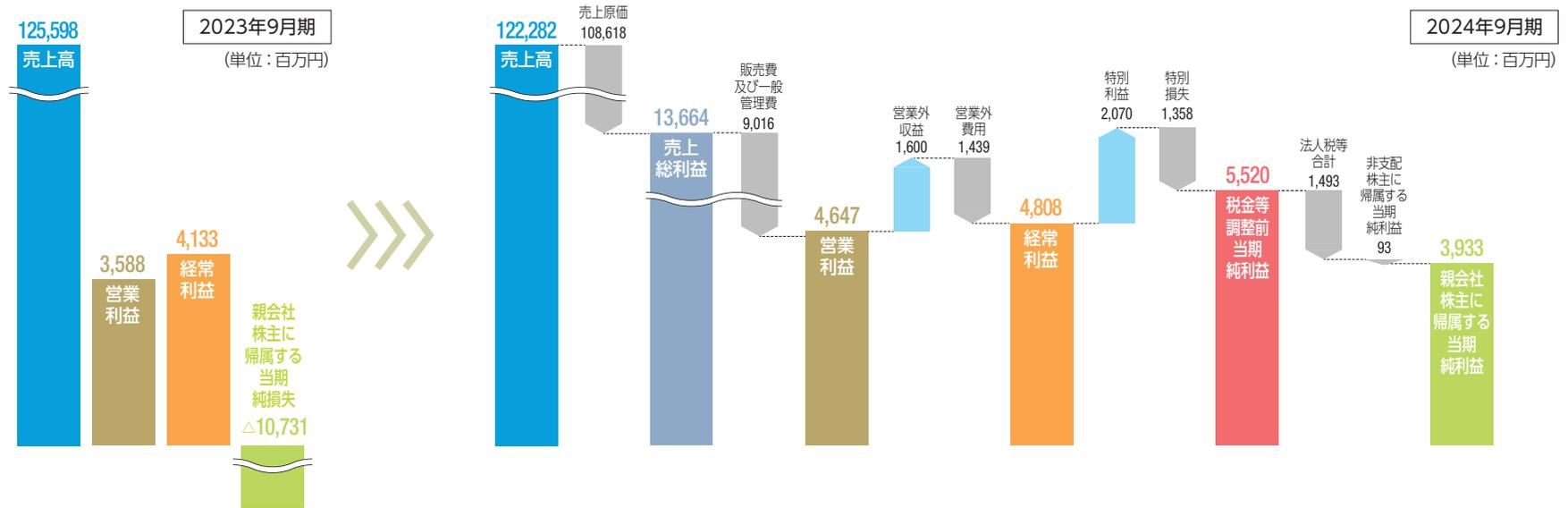
(百万円)



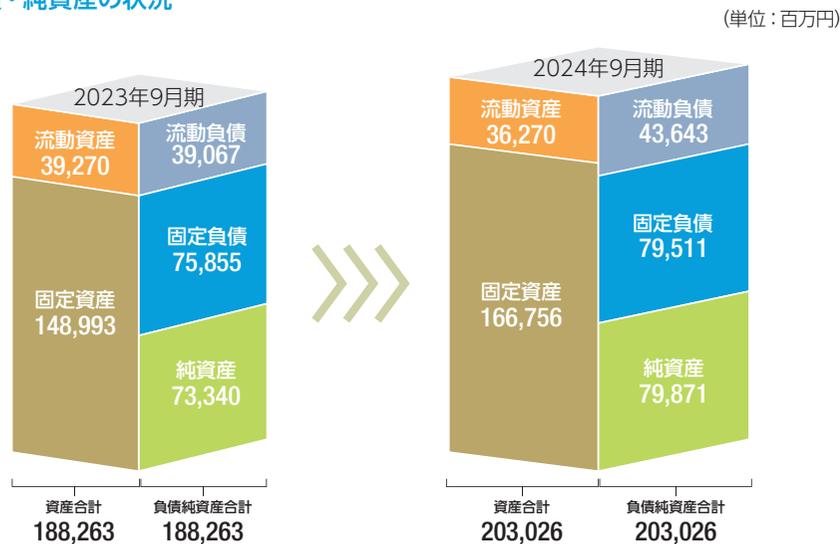
連結財務諸表(要約)

連結財務状況

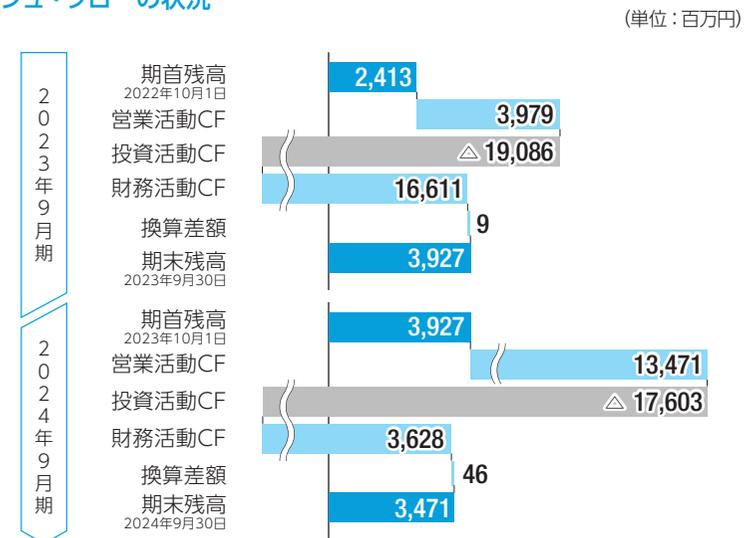
◆ 損益の状況



◆ 資産・負債・純資産の状況



◆ キャッシュ・フローの状況



■ 全社

■ ヨコレイロゴ変更

旧ロゴ



↓

新ロゴ



■ 食品販売事業

■ バルセロナシーフードExpo2024出展

2024/4/23～2024/4/25に開催されたスペイン・バルセロナ「Seafood Expo Global 2024」に、ヨコレイ海外営業1部が出展いたしました。

「Seafood Expo Global 2024」は、世界三大水産見本市の一つとされ、欧州最大の水産専門見本市であり、欧州市場への販路開拓を目指す企業にとって効果的な見本市です。



■ 冷蔵倉庫事業

■ 名古屋通関部開設
■ 箱崎FACILITY物流センター竣工 **PICK UP**

■ 全社

■ 関西将棋会館建設プロジェクトへの寄付により紺綬褒章受章

2024年9月6日、濱田剛史高槻市長より褒章を拝受しました。当社は、高槻市と日本将棋連盟がともに取り組む関西将棋会館建設プロジェクトへの寄附が公益に資するものとして評価され、紺綬褒章を受章する運びとなりました。

【紺綬褒章とは】
公益のために私財(500万円以上)を寄付した個人、1,000万円以上を寄付した法人・団体に対し、政府より授与される褒章です。現在は建設中で、11月中旬にお披露目になるとのことです。



2023年
11月

2024年
1月

2月

4月

7月

8月

9月

■ 冷蔵倉庫事業

■ AEO制度における「認定通関業者」資格を取得

■ 冷蔵倉庫事業

■ 恵庭スマート物流センター竣工



■ 夢洲第二物流センター竣工



■ 食品販売事業

■ 気仙沼SS：漁船表彰買受最高位受賞

当社気仙沼ソーティングスポットは、気仙沼市産業の発展に寄与したとして「令和6年漁船表彰 買受最高位」に選ばれ、トロフィーが贈呈されました。



■ 全社

■ インスタ開設

ヨコレイのInstagram(インスタグラム)の公式アカウントを開設いたしました。当社の情報や魅力を発信していきますので、フォローや「いいね！」をお願いいたします。



■ 冷蔵倉庫事業

■ 長岡物流センター(仮称)新設 **PICK UP**

■ 全社

■ ヨコレイドリームナイター

2024年8月21日の横浜DeNAベイスターズvs中日ドラゴンズ戦で当社冠試合「ヨコレイドリームナイター」を開催し、初めて場内でヨコレイの15秒CMを放映いたしました。



■ 食品販売事業

■ 平戸IF太陽光発電設備設置 **PICK UP**

箱崎FACILITY物流センター竣工



[箱崎FACILITY物流センターの概要]

● 住所	福岡県福岡市東区箱崎ふ頭5丁目9番16
● 構造・規模	鉄筋コンクリート造 5階建て 敷地面積：5,040㎡ 延床面積：10,160㎡ 建築面積：2,558㎡
● 収容能力	11,947 t (F級)
● 導入設備	高効率省エネ型自然冷媒冷凍機、屋上太陽光発電システム (163kW) リチウムイオン蓄電池 (106kWh)、EV自動車充電ステーション 電動式移動ラック、高天井人感センサー照明設備 (LED) BEMS (ビルディング・エナジー・マネージメント・システム) フードディフェンス対応 (全フロア) ⇒入退館・監視カメラシステム 等
● CASBEE	総合評価ランクA取得

このたび、新たな施設として、福岡市東区箱崎ふ頭に「箱崎FACILITY物流センター」を竣工いたしました。当センターは、主要設備として、入出庫作業を効率的に行える電動式移動ラック(2770/パレット)や、外気にさらされずに貨物の入出庫が可能となるエアシェルターを備え、省エネ・環境に配慮した設備として、高天井人感センサー照明設備や太陽光発電設備などを導入し、BCP(事業継続計画)対策にも注力しております。当センターの竣工により、九州地区全体の冷蔵倉庫は16カ所(ソーティングスポット含む)、庫腹量は24万9849トンとなります。

平戸アイスファクトリー太陽光発電設備設置



この度、長崎県平戸市「平戸アイスファクトリー」に、再生可能エネルギー創出として太陽光発電設備を設置しました。

当施設は、2021年に横浜冷凍(株)として初のアイスファクトリーとして竣工しました。

今回、平戸市「地球温暖化対策実行計画」に賛同し、地方創生SDGsの推進の一環として平戸市および平戸魚市株式会社様のご協力のもと太陽光発電設備を設置し稼働を開始いたしました。これにより、再生可能エネルギーにて施設内の使用電力16.8%を賄える予定です。

長岡物流センター(仮称)新設



当社は新潟県長岡市に「長岡物流センター(仮称)」を新設します。食のインフラを支える企業として、以前より北信越地区の営業冷蔵倉庫(収容能力)が少ないこと、また能登半島地震を機に国内のBCPの観点からサプライチェーン強化も含め、日本海側初となる長岡物流センター(仮称)の新設を行うことといたしました。

当センターは、当社の営業エリア拡大および将来の貨物構成の変化や自動化・効率化機器の導入等に柔軟に対応できる施設構成で、施設運用段階で事業者の多様なハンドリングも対応可能にするユーティリティゾーンを広く完備するとともに、BCP対策も万全を期した横浜冷凍の北信越地区の要となります。

[長岡物流センター(仮称)の概要]

● 工期	2024年7月~2026年夏(予定)
● 住所	新潟県長岡市稲保4丁目558番地7
● 構造・規模	鉄筋コンクリート造 + 一部鉄骨造(地上3階) 敷地面積：21,250㎡ 延床面積：21,869㎡ 建築面積：7,665㎡
● 収容能力	27,272t (F級：23,641t C級：1,174t ユーティリティゾーン：2,457t)
● 主な設備	高効率省エネ型自然冷媒冷凍機、陽圧デジカント空調システム、自然対流冷却設備 ジェネレーター連結システム、メカニカルボイド、EV自動車充電ステーション カーゴナビゲーションシステム&電動式移動ラック 他



安全で美味しい食材を安定供給そして厳選材料で加工製品を創造するヨコレイの食品販売事業

「国内外の生産者とのネットワークを活かし、目利き力により旬や美味しさをお客様へ」を事業方針に掲げ、消費者とも近い立場にある食品販売事業。今回、当事業を統括する吉川尚孝常務取締役より、事業の注力点や今後の展望等について語っていただきました。

常務取締役
事業総合企画本部長
兼 販売事業本部長

吉川 尚孝

強みである“調達力”をベースとした“量から質へのシフト”が奏功

食品販売事業の強みは、圧倒的な調達力と取扱量の多さにあります。一例ですが当期において、当社扱いのノルウェーサーモン(スモークサーモン、ドレス、筋子類)は一部市場の冷え込みによる影響はあったものの、高い品質が評価され、安定的な販売に貢献しました。国内の前浜水産品では、東日本は総じて不漁続きではあったものの、タコ類はアフリカでの高騰を背景に北海道、三陸沖の国産集荷へ専念したことで利益率向上に繋がりました。一方、西日本はサバ、イワシ類を中心に水揚げが順調に推移し、凍結生産も昨対比115%と計画通りに伸長しました。原料価格や魚価の高騰など厳しい事業環境でしたが、大手企業で唯一の買参権所持、前浜凍結自社設備を擁するといったアドバンテージの下、相場の状況に応じた量から質への機動的シフトが奏功し、着実に増益を確保することができました。

ボラティリティ抑制に向けて末端販売への取り組みを強化

食品販売事業では、第一次産業との関係性であったり、為替・漁獲高等の不確実性要素を伴うトレーディングを主

としていることから、どうしてもボラティリティが大きくなりがちなのが実情です。この点を解消・払拭すべく、現在、食品販売事業では現行の中期経営計画内の重点施策としても掲げているように、量販店や外食といった末端への販売、即ち加工品への取り組みに注力しています。取り組みは緒に就いたばかりですが、医療食など着実な伸長を見せています。今後は、末端ユーザーとの接点となる全国営業所網でのベストプラクティスの共有、トレーディングだけでなく加工品にも精通したスペシャリストの育成等を図り、環境に左右されない事業体制の構築に努めていきたいと考えています。

ステーキホルダーの皆様へのメッセージ

私たち食品販売事業は、水産・畜産・農産と「食」に関するあらゆる食材を取り扱うまでに成長し、国内外へ躍進を続けています。国内では、大手企業で唯一買参権を所持していることを活かし、東北・九州地区で水揚げされる水産資源を確保し、国内外へ幅広く展開しています。海外からは、パートナー企業との協働により、自給率が落込む国内へ厳選した食材を輸入しています。また昨年は、当社初の小売りサイト「DERI yokorei」を開設しました。サイト内では、当社製品、扱い商材を使用した製品、スタッフお勧め

の製品など着実にラインナップを増やし、数多くの株主様からも好評をいただいています。

このように私たちは、国内、海外で生産された「安全で美味しい食材を安定的に供給すること」を最低限の使命としています。そして、昨今のインバウンド需要への対応を重視する一方、日本の美味しい食材を、一般消費者の方々にもっと食してもらえよう貢献していけたらとも考えています。このような想いの下、厳選された原材料で加工製品を創造していき、株主様をはじめ、より多くの人々に「食」を通して幸せと笑顔を届け続けられるよう、工夫と努力を続けてまいります。



会社情報 (2024年9月30日現在)

会社概要

会社名 横浜冷凍株式会社

本社所在地 〒220-0012
横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号
横浜コネクトスクエア10階
TEL: 045-210-0011 (代表)
FAX: 045-210-0018

設立 1948年5月13日

資本金 14,303,426,625円

従業員数 連結 1,736名 単独 1,401名

- 事業内容
1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業
 2. 水産品の加工、販売並びに輸出入
 3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入
 4. 通関業
 5. 養殖業
 6. 製氷業
 7. 貨物利用運送事業並びに貨物自動車運送事業
 8. 不動産賃貸業
 9. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売
 10. その他前各号に付帯関連する一切の事業

役員および執行役員 (2025年2月17日現在)

取締役会長	吉川 俊雄	執行役員	織田 政和
代表取締役社長	古瀬 健児	執行役員	中尾 成人
常務取締役	越智 孝次	執行役員	星 光孝
常務取締役	吉川 尚孝	執行役員	小松 晃子
取締役	岡田 洋	執行役員	伊豆 肇
取締役	池田 浩人	執行役員	関 晋也
取締役	星野 義明	執行役員	川原 法男
取締役	吉田 郷	執行役員	寺井 利行
取締役(社外)	酒井 基次	執行役員	榎 貴範
取締役(社外)	堀合 洋祐	執行役員	石田 和仁
取締役(社外)	本田 光宏	執行役員	北池 信夫
取締役(社外)	坂本 順子	執行役員	松井 美枝子
常勤監査役(社外)	井上 啓造	執行役員	栗山 知浩
常勤監査役(社外)	奥田 康一郎	執行役員	阿部 広康
監査役(社外)	宗像 久男		
監査役(社外)	市川 裕介		

ネットワーク

冷蔵倉庫事業 53拠点

北海道・東北ブロック
十勝物流センター
十勝第二物流センター
十勝第三物流センター
石狩物流センター
石狩第二物流センター
恵庭スマート物流センター
喜茂別物流センター
八戸物流センター
気仙沼ソーティングスポットⅠ
気仙沼ソーティングスポットⅡ
仙台物流センター
圏央ブロック
加須物流センター
加須第二物流センター
幸手物流センター
鶴ヶ島物流センター
伊勢原物流センター
つくば物流センター
ちばりサーチパーク物流センター
京浜ブロック
東京羽田物流センター
東京物流センター
東京第二物流センター
大黒物流センター
横浜物流センター
横浜みらいサテライト
山内物流センター
中京・東海ブロック
沼津物流センター
大井川物流センター
名港物流センター
小牧物流センター
名古屋物流センター
中川物流センター
阪神ブロック
夢洲物流センター
夢洲第二物流センター
北港物流センター
舞洲物流センター
西淀物流センター
六甲物流センター
九州ブロック
福岡ISLAND CITY物流センター
福岡物流センター
箱崎FACILITY物流センター
鳥栖物流センター
鳥栖第二物流センター
唐津ソーティングスポット
長崎物流センター
長崎ソーティングスポット
佐世保ソーティングスポット

都城物流センター
都城第二物流センター
志布志物流センター
鹿児島物流センター
川辺物流センター
枕崎ソーティングスポット
山川物流センター

食品販売事業 21拠点

畜産営業部
畜産名古屋営業部
海外営業1部
海外営業2部
海外営業3部
東京営業所
名古屋営業所
大阪営業所
札幌営業所
十勝営業所
沼津営業所
気仙沼営業所
仙台営業所
銚子営業所
茨城営業所
八戸営業所
福岡営業所
唐津営業所
佐世保営業所
長崎営業所
枕崎営業所

通関事業 6拠点

東京通関部
横浜通関部
名古屋通関部
大阪通関部
神戸通関部
九州通関部

連結子会社

THAI YOKOREI CO.,LTD. (タイ)
ワンノイ物流センター
ワンノイ物流センター2号棟
バンパコン物流センター
バンパコン第2物流センター
サムロン物流センター
BEST COLD CHAIN CO.,LTD. (タイ)
VIETNAM YOKOREI CO.,LTD.(ベトナム)

株式の状況

発行可能株式総数 160,000,000株

発行済株式の総数 59,266,684株

株主数 15,633名

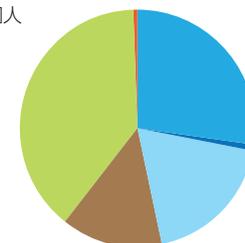
大株主(上位10名)

大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,723	9.68
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,750	4.65
株式会社松岡	2,569	4.34
第一生命保険株式会社	2,205	3.73
株式会社横浜銀行	2,176	3.68
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,737	2.94
農林中央金庫	1,473	2.49
株式会社八丁幸	1,411	2.38
横浜冷凍従業員持株会	1,333	2.25
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,097	1.85

(注) 持株比率は自己株式(171,535株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

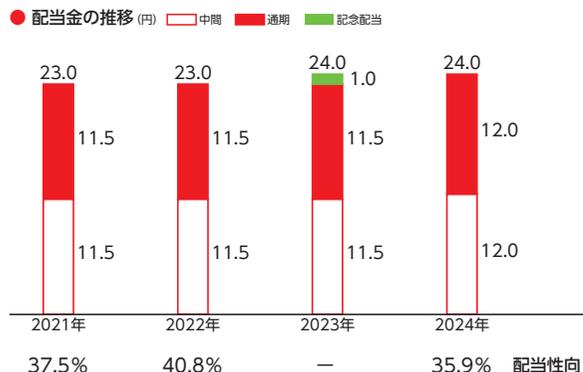
■ 金融機関	16,300千株	27.5%
■ 金融商品取引業者	489千株	0.8%
■ その他の国内法人	10,903千株	18.4%
■ 外国法人・外国人	8,329千株	14.1%
■ 個人・その他	23,073千株	38.9%
■ 自己名義	171千株	0.3%



株主還元方針

■ 配当金・配当性向

当社は、株主の皆様に対する利益還元の実施を重要な経営課題の一つとして認識し、企業価値向上に必要な設備・IT投資等を勘案しつつ、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としています。この方針に基づき、当期の期末配当金は1株当たり12円、年間配当金は24円とさせていただきます。



■ 株主優待

株主の皆様からの日頃のご支援に対する感謝と、ヨコレイグループの事業内容へのご理解をより一層深めていただきたいとの思いから、年1回、以下の基準にて、ヨコレイグループ取扱商品を使用した株主優待を実施しています。

ご優待内容および対象となる株主様 (第77期実績)

① 3,000株以上かつ1年以上 保有の株主様*

「北海道産のホタテ・いくらセット」

② 1,000株以上～3,000株未満かつ1年以上 保有の株主様*

「ノルウェー産サーモントラウト製品詰合せ」

③ 100株以上 保有の株主様

右の公式オンラインショップのご案内をご覧ください

* 9月30日現在の当社株主名簿に記載または記録された当該株数保有の株主様のうち、1年以上同じ株主番号で継続して当社株式を保有されている株主様が対象となります。

* ご優待内容は、変更になる場合があります。

株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日 剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載します。なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 https://www.yokorei.co.jp/investors/publication/index.html
単元株式数	100株
上場取引所	東京証券取引所 (プライム)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

公式オンラインショップのご案内

2024年9月30日時点で100株以上保有の株主様には、引き続き株主様ご優待品と同じ商品をお得にご購入いただける「株主様特別販売ページ」をご用意しております。ぜひ一度 DELlyokorei にお越しください。皆様のご来訪を心よりお待ちしております。



ヨコレイ公式オンラインショップ「DELlyokorei」

▶ <https://deliyokorei.com>

▶ デリヨコレイ コールセンター 0120-772-225

【受付時間】 平日9:00～17:00
(土日祝日、年末年始、夏季等の特別休業日を除く)



ホームページのご紹介

▶ <https://www.yokorei.co.jp/>

ヨコレイのホームページでは当社の最新ニュースや事業紹介に加え、IR情報が一目でわかる財務ハイライト等、個人投資家の皆様に当社を深くご理解いただけるよう、様々なコンテンツをご用意しております。

